

4月27日
臨時議会開催

各委員会等

新メンバーにて始動!

新しい役職などが決まりましたので、ご紹介します。

議会

- ・議長：植村さん
- ・副議長：衣川さん
- ・監査委員：瀬角さん

総務建設委員

- ・委員長：辰巳光則さん
- ・副委員長：松本さん
- ・川口さん
- ・辰巳勝秀さん
- ・植村さん

福祉文教委員

- ・委員長：森内
- ・副委員長：松田さん
- ・瀬角さん
- ・池田さん
- ・衣川さん

議会運営委員会

- 議員全員がメンバー
- ・委員長：松本さん
 - ・副委員長：松田さん

式下中学校組合議会

- ・議長：伊藤彰夫さん(川西町議員)
- ・副議長：森内
- ・植村さん
- ・衣川さん
- ・松田さん

※当議会は三宅町議員4名、川西町議員4名の合計8名で構成。

山辺・県北西部広域環境衛生組合議会議員

衣川さん

※天理市にできる新しいごみ焼却場に関わる組合です。

森内哲也
活動報告
第7号
2017年6月



Q.「総務建設常任委員会」って?

行政一般、財政並びに道路、河川、住宅
その他建設一般、農林業、商工業、その他
産業、労働に関すること及び他の委員会に
属しない事項を扱います。

Q.「福祉文教常任委員会」って?

社会福祉、保健衛生、公害その他一般並びに
教育委員会の所管に属する事項を扱います。

もりうち てつや
森内哲也後援会

三宅町伴堂137-9

Tel/Fax : 0745-44-4194

メール : miyake@best-for-u.com

サイト : http://mt.best-for-u.com

出来るだけ紙面も発行し配布したいと
思っています。が、WEBの方が盛りだくさ
んで情報が早いです。
左記アドレスへのご意見も
大歓迎です!



詳しくはwebで!



《6月議会の要点》



◎一般会計第2回補正予算について

未就園児とその親に対する、子育て支援センター「スマイル」の内容を充実させるため、140万円程度を計上。

視点

子育て支援は、人口問題など考えるうえでも、今後も最重要視されるべき大事な施策です。

補正予算でなく当初より計画を立てて、予算計上してあるべき。

長期に継続して実施してゆく必要があり、我々議員や町長の任期（4年）よりもっと長い視点が必要になってきますので、職員・議員・町民の間でも『大事で継続すべき施策』という共通認識を作ってゆく必要ありです。

小柳井堰（川の水をせき止める所）の修繕費 50万円程度を計上。

視点

小柳井堰はゴム堰（小さいダム）で、空気で袋体を膨らませ水をせき止める装置を使用。すでに耐久年数を超えており修理が時々発生しています。装置自体を変える必要ありで、装置自体を変えると莫大なお金が必要です。補助金を利用しても自治会の負担は数千万円というレベルです。

コメ作りをしないのなら無くしてしまっても良いらしいですが、この井堰を利用する米作農家にとって本当に無くなっても良いのでしょうか？

現在「小柳自治会で、どうするか決めて下さい」という対応をしているようですが、「町全体として農業をどうするか？」という大きなくくりで考えないといけない問題だと感じています。

◎企業立地のための事業協力促進条例の制定について

企業立地促進のための条例を制定。企業立地用として土地を売る側へも“特典”をつけましょうという内容。

視点

“特典”は、①土地売却にかかる税の優遇 ②土地を貸し付けた場合にかかる固定資産税の優遇です。今議会でこの条例制定は可決されました。それを受け運用のための規則も発布されました。H29年7月1日から施行。

◎一般質問をしました！

【概要】三宅町は各事業に対して、最終的に目指す目標を具体的に設定し、それを職員全員で共有していますか？

Q. 事業評価について

町では人口減少対策、財政改善策など、様々な事業が展開されてきました。各事業に対して“効果があったのか or 効果が見られなかったのか”を検証し、次に活かすことは必要だと思います。

そこで、町では各事業の“最終目標達成地点”を具体的に設定されていますか？

例えば、町のホームページで公表されている「三宅町まち・ひと・しごと創生総合戦略事業検証シート」。この検証シートは、最終目標を達成するために必要なチェックポイントが分かり、成果を分析する良い手段の一つだと考えます。しかし、『三宅町内の何がどうなったら効果があったといえる』という具体性が見えません。

A. 事業評価も導入していない中、具体的に設定しておりません。

(※すべての事業に対して、事業評価を導入しているのではない。という意味だと思われます。)

しかし、事業評価は地方自治体の財政危機下の経営手法として、その成果や効率性を行政自らが評価し、更に、公表することにより、行政の透明性の向上と説明責任を果たすものであると認識しており（中略）結果重視の視点に加え、行政の効率化、活性化を図り、更に、円確にすることで、コストと効果の両面から評価するものとして必要であると考えます。

職員全員で事業の最終目標を共有しているか？については明確な回答が得られず残念ではありましたが、必要性は理解してくれていると感じています。

(私が上手く追加質問できていなかった可能性も大いにあります！?)

また、目標の共有については、職員間だけでなく、議員とも、住民さんとも必要になってくるのは言うまでもありません。

住民さんとの(情報の)共有という点においては、議員にも努力が求められることがらで、議会として、議員として、頑張らないといけない点です。

上記以外に、「過疎地域指定について」と「コツコツ地道な事業」についても質問をしました。この2点については裏面に私の意見として記載しています。どうぞお読みください。

(サイトには実際の質問内容と回答を掲載しています)

次回の議会は9月に開催

三宅町が「過疎地域」指定！

4月1日施行で三宅町が「過疎地域」に指定されました。

過疎地域は法律（過疎法）により、人口減少と財政規模の指標があり、国勢調査の結果に基づき、国から自動的に指定されます。三宅町は、財政規模については以前より「過疎」に分類される指標でしたが、今回、人口減少の指標でも“ひっかかり”、「過疎地域」に指定されたというわけです。

過疎地域に指定されると、過疎対策事業債など財政上の特別措置対象となるわけですが・・・

「やった！助成金が増えるやん！」

・・・と喜んではいられませんよ！

※平成2年の国勢調査人口と平成27年の国勢調査人口による人口減少率が0.21以上や平成25年度から平成27年度までの財政力指数の平均が0.5以下などの要件があります。

インターネット検索ワード「総務省 過疎対策」

「助成の適応範囲が増える」＝「借金が出来て、使えるオカネの額が割り増し」＝「いわゆる子や孫の世代へのツケじゃないの？」と考えると、“助成金で何をするのか？”中身がとても大事になってきます。

（有利な条件で借金できるというのは、ありがたい話ですが、「困ったら借金」「借金がないと困った状態」という体質は必ず改善しないといけません）

「衰退がこのまま続く可能性」を防ぐ策を考えないといけません。具体策は？人口減・財政減少を衰退以外の視点から見てみる？ 持続可能性という考え方は？？？

「地元の人と仕事を取り戻す『田園回帰1%戦略』」なるものがあります。地域内の人口構成・おカネの流れを把握して（現状把握）、取り戻せる部分（＝地域外へ漏れ出ている部分）に対して、少しずつ（1%を目標として）取り戻してゆく（＝地域内でオカネが回るようにしてゆく）。という戦略です。「企業誘致に成功して一発逆転」とか、「特産品開発で一発当てる」とか、そういう発想ではありません。「ちょっと（1%）ずつ、地味だが確実に」という戦略です。研究の余地、大いにあります。

三宅町では、「稼げる農業」と銘打って講演会を開催したりもしています。半分農業しながら半分は他で稼ぐ兼業農家を言い換えた「半農半X」なる言葉も聞きます。地味だが確実に、三宅町が変わってゆく方法を模索してゆかないといけないと思っています。（言うのは簡単ですが…）

編集後記

いろいろなご意見をいただいています。メールでも連絡も可能です

miyake@best-for-u.com

自宅前には、
手作り「目安箱」
も設置中！
サイトにもあるよ！

